〇子どもとともに未来をつくるコンダクター〇

# 秋田大学教育文化学部
# 特別支援教育コースへようこそ！

## ● 学校教育課程 特別支援教育コース

特別支援教育コースでは、知的障害児をはじめとする発達障害児に関する理解を深め、「地域・社会」における「共生」の理念のもと、特別支援教育の理論や実践について教育研究を行い、人間発達への深い理解をめざします。

## ● 特別支援教育コースはどんなところ？

**【在学生によるコース紹介】　佐藤　里香　（令和3年度入学）**

特別支援教育コースは、各障害の理解や特別支援の知識について学びます。座学の講義だけでなく、学校・施設での実習やボランティア活動が充実しているため、障害のある方々と関わりながら特別支援教育について理解を深めることができます。将来、教員を目指す人にとって、大学で学んだ知識を実践で活かし、学生のうちからたくさんの経験を積むというのは、なかなか出来ない貴重な学びであり、その経験が必ず自分の力になります。こうした豊かな学びができるのが、特別支援教育コースの大きな魅力です。現在では学校種に関係なく、全教員に特別支援教育の知識が求められています。教育に携わる人にとって、このコースでの学びは必ず役に立ちます。また、特別支援教育コースは、学びだけでなく遊びにも全力です。先生方と学生どうしの距離感が非常に近く、全員で盛り上がる楽しいイベントがたくさんあります。人との出会いや繋がりを大切にしているのも、このコースの魅力です。

**【当コース卒業生からの言葉】　秋田大学大学院教育学研究科　東海林　天　（令和4年度卒業）**

私は、特別支援学校の先生になりたいという思いから、特別支援教育コースに入学しました。学部時代は、コース内の様々なボランティアサークルに参加していました。その際、初めて支援者として障害のある方々と関わり、障害のある方への支援に対する関心がどんどん高まっていきました。また、授業や実習を通じて、教師として障害のある子どもたちと関わり、将来に対する期待も膨らんでいきました。そういった中で、実習においてご指導していただいた担当の先生から、教職大学院で学ぶことを勧めていただいたことがありました。この出来事をきっかけとして様々な先生方にお話を伺ったところ、大学院では学部での学びをグレードアップさせることのできる経験を多く積むことができることを教えていただき、大学院への進学を決めました。

現在、私は秋田大学の教職大学院で教職や特別支援教育についての学びを深めています。教職大学院では、現場で働いている先生方や、高い志をもって進学してきた先輩方、同期と過ごす中で、教員としても、人としても学ぶことのできる機会がたくさんあります。多くのことを学べるだけではなく、楽しいイベントもたくさんあります。皆さんも、学びと楽しさが詰まった教職大学院へぜひいらしてください。待っています！

## ● どんな免許が取得できるの？

・特別支援学校

・小学校

・中学校（国語、数学、社会、理科、英語、家庭科、音楽、美術、保健体育）

・高校（国語、数学、社会、理科、英語、家庭科、音楽、美術、保健体育）

・幼稚園・保育士・学校司書・社会教育士など

様々な免許を取得することができます！！

## ● 特別支援教育コースってどんな感じ？

コース行事　演芸祭

コース行事　歓送会

コース行事　新入生歓迎会

特別支援教育コースは、1年生から4年生までが仲が良く、縦のつながりがとても強いコースです！

## ● どんな授業があるの？

〇特別支援教育コースでは、知的障害や病弱、肢体不自由を中心に様々な障害について学びます。主な専門科目は以下の通りです。

| | |
|---|---|
| 障害児教育学総論 | LD・ADHD 等教育総論 |
| 発達障害病理概論 | 特別支援学校教育課程論 |
| 知的障害教育論 | 特別支援教育研究演習 |
| 知的障害児の心理学 | 知的障害児心理学実験 |
| 病弱教育総論 | 知的障害児生理学実験 |
| 病弱児の心理・生理・病理 | 障害者福祉論 |
| 肢体不自由教育総論 | 特別支援学校教育実習 |
| 肢体不自由児の心理・生理・病理 | 重複障害教育総論 |
| 視覚障害教育総論 | |
| 聴覚障害教育総論 | |
| 言語障害教育総論 | |

## ● ボランティアが盛んな特別支援教育コース

**【在学生からひとこと】　藤原　宙詩　（令和3年度入学）**

特別支援教育コースでは、現在の教育現場で特別な支援を必要としている子ども、特に障害を抱えている子どもに対するさまざまな支援や教育を学ぶことができます。教師を目指すということは、健常者の子どもだけでなく、さまざまな事情を抱えた子どもに向き合っていかなければなりません。そんな中で、特別支援教育で多くの見方を知り、子ども一人一人のことを考えることができるような教師を目指すことができます。

また、特別支援教育コースは、障害に関する特別支援教育を学ぶだけでなく、コース自体がとても仲が良く、学年での縦のつながりが深いので、ボランティアやさまざまな行事を通して先輩後輩問わず交流することができます。

この特別支援教育コースという環境で、楽しい大学生活を送り、さまざまな学びを深め、毎日充実した日々を過ごすことができていると感じています。

### 【虹の輪】

**佐藤　里香　（令和3年度入学）**

虹の輪では、特別支援学校に在学中または卒業された会員の皆様と一緒に、スポーツやダンスなど体を動かすことを通じて交流をしています。障害の有無にかかわらず、誰でも得意不得意があります。私たちは「出来る・出来ない」に拘らず、「やってみたい・楽しみたい」という気持ちを大切に活動をしています。虹の輪は多くの人の「居場所」となるような団体であり、様々な人と関わりながら多くの学びが得られる場所です。

### 【T.E～手話・点字サークル】

**高橋　聖佳　（令和3年度入学）**

週に一度、外部から指導してくださる方を招き、主に手話を学んでいます。また、年に2～3回、聴覚支援学校の寄宿舎の生徒たちと交流会を開催しています。手話や口話でお話ししたり、一緒に運動やゲームをしたりといつも楽しい時間を過ごしています。

聴覚障害がある方と定期的に関わる機会があるので、手話を勉強したい方、ちょっと気になる！という方におすすめのサークルです。手話は実際に会話で使うほど上達します！ぜひ私たちと一緒に手話や、ろう文化について学んでみませんか？

## 【SSA (Siblings Support Akita)】

**柏　あかり（令和3年度入学）**

SSA (Siblings Support Akita)～きょうだいの時間～では、様々な方と協力しながら秋田県できょうだい支援を広めるための活動を行っています。
「きょうだい」とは、病気や障害のある兄弟姉妹がいる方のことです。きょうだい同士のつながりや、きょうだい支援のネットワークを県内外へと広げることにより、きょうだいがより安心して過ごせる場所・時間を作ることを目指しています。小学生のきょうだいさんが思いっきり楽しんで遊ぶことのできる時間を設けたり、きょうだい支援について考えて話し合う場があったりときょうだいさんのみならず様々な方と交流しながらとても楽しく活動を行っています。また、活動するたびに学びが多く、充実した時間を過ごすことができます。

## 【スペースクラブ】

**東海林　天（令和元年度入学）**

スペースクラブは月に一度日曜日に、自閉症の方々の余暇活動を支援する活動を行うボランティアサークルです！
活動ではみんなで料理をしたり、動物園に行ったりと、とても楽しい時間を過ごすことができます^ ^
代表の私が活動において最も心に残っていることは、普段はノンバーバルなコミュニケーションの多い会員さんが楽しそうにカラオケを歌っていたことです。そのようなあたたかいエピソードにたくさん出会うことのできるボランティアサークルです！
ぜひ皆さんも素敵な会員さんと一緒に活動してみませんか？

現在は、この4つのボランティアサークルが活動しています！
他にも、さまざまなボランティア活動に参加しています！

## ■■■ 研究室のスタッフは，次の3人です！

■■■ 前原　和明
■■■ 藤井　慶博
■■■ 鈴木　徹

コース教員のメッセージを是非ご覧下さい。

# 前原　和明　（まえばら　かずあき）

## ■■■ 担当している主な授業

障害福祉論・知的障害教育論・教育福祉実習

## ■■■ 学生のみなさんへのメッセージ

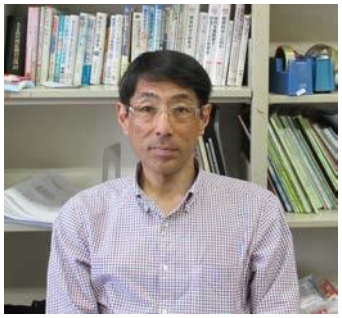
私はこれまで障害をお持ちの方々の就労支援に携わってきました。このような背景から特別支援学校の児童生徒の皆さん等の障害をお持ちの方々が安心して社会で暮らしていくための方法について研究しています。

私が障害を持つ児童生徒の皆さんと関わりを持つきっかけは、大学2年生の時でした。質問にうかがった大学時代の恩師から自主ゼミへの参加の機会や障害を持つ児童生徒達との関わりのへの参加の誘いを受けたことが始まりでした。誘いは受けたものの毎回悩みながら活動に参加していました。このような私を先輩たちは優しく、丁寧にサポートをしてくれました。その結果、様々な子ども達との活動を通しての気づきやその際に恩師から指導に基づく多くの学びを得ました。このような経験から私は、これまで“ふつう”と思っていたことが必ずしも“ふつう”ではないこと、異なる視点から見ることで違う見え方があるということを知ることができました。これらの大学時代に学んだことは、今でも物事を理解するための枠組みとして役立っています。

この特別支援教育コースでは、様々なことを学ぶための機会が多く準備されています。また、コースの先輩たちは誰もが優しく、きっと皆さんの成長をサポートしてくれると思います。

皆さんと共に、障害をお持ちの方々の生涯発達を支える教育のあり方や支援方法について考えていければ幸いです。

# 藤井　慶博（ふじい よしひろ）



## ■■■ 担当している主な授業

**インクルーシブ教育論・病弱児の心理･生理･病理特別な教育的ニーズの理解とその支援・ＬＤ･ＡＤＨＤ等教育総論・特別支援教育研究演習**

## ■■■ みなさんへのメッセージ

－障害者は支援されるだけの存在なのか？－

私は以前、特別支援学校の教員をしていました。ある時、Ａ高等学校から交流の申し出があり、「どんな生徒がくるのだろうか」と交流初日を心待ちにしていました。

ところが・・・

玄関先にきた生徒達は、腰パン、茶髪（若干ですが）、ルーズソックス（時代を感じますな～）の出で立ち。各教室に 2～3 人ずつ配属された生徒は、棒立ち状態、両手を後ろに組み、仲間とペチャクチャ・・・

「何じゃ。この生徒たち」と、私は正直頭を抱えました。

ところが、交流の回数を重ねるたびにこの生徒達に明らかな「化学変化」が表れました。服装が変わりました。髪の色が変わりました。何よりも子ども達への接し方が変わりました。交流最後の日、バスに乗って帰る時には全員が涙、涙・・・。

この話は、これで終わりではありません。

後日、この高校生のみなさんが、自分たちでお金を出し合い、バスを借り上げて、特別支援学校の子ども達に会いにきたのです。

この時、私は二つのことに感激しました。

一つは、高校生達の変容です。初めの腰パン、茶髪、後ろ手だった彼ら彼女らが、交流の最後には全員が涙を流し、自腹を切って特別支援学校に会いに来るまでになったことを。

また、それ以上に感激したのは、彼ら彼女らに涙を流させる、そして「もう一度、この子達に会いたい」と、心を鷲づかみにした特別支援学校の子ども達の存在です。いったいこの子達のどこに、高校生に「化学変化」を起こさせる力があるのでしょうか？

一般に、障害のある人は「支援される存在」であり、障害のない人は「支援する存在」と考えられがちです。果たして、そのように単純な構図なのでしょうか？

－共生社会とは？－

紹介した交流のエピソードからは、特別支援学校の子ども達以上に、高校生にとって大きな学びがもたらされたことを感ぜずにはおれません。

数年後、この時の交流がきっかけとなって、特別支援学校の教員になった、または福祉の道に進んだ高校生がたくさん出たという話を聞く機会がありました。つまり、障害のある子どもたちが、健常者（と言われる人）の人生行路の道標ともなった事実がそこにあったのです。

グローバルな時代です。障害のあるなしにかかわらず、人と人とが向き合うとき、互いの価値を認め合い、多様であることを尊重し合い、共に生きていける社会を形成するために、自分の役割は何なのか、みなさんと一緒に学んでいきたいと思っています。

# 鈴木　徹　（ すずき　とおる ）

## ■■■ 担当している主な授業

**知的障害児心理学実験・知的障害児の心理学・特別支援教育研究演習・障害児教育・福祉制度実習**

## ■■■ 私からのメッセージ

大学生時代、私は決して優秀ではなく、むしろ先生方に迷惑ばかりかけていました。所属していた大学では、4 年次にゼミが決まることになっており、自分の意思とは関係なく、なぜか一番“厳しい”（と書いて“やさしい”と読む!?）と噂されていた（恩師の）ゼミに所属することになりました。この恩師との出会いが私の運命を大きく変えました。もちろん、良い方向に･･･。

恩師からの言葉でよく覚えているのは、「子どものミカタが重要だ」です。このミカタには、2つの意味があります。今でも私が子どもとかかわる上で心掛けていることなので、皆さんにもご紹介したいと思います。

1 つ目は、子どもの見方(ミカタ)です。子どもの行動を複数の視点から多角的に解釈することは、かかわり手の支援方略の拡大に直結します。行動に対する多様な解釈を身につけるためには、目の前の子どものことを分かろうとしなければなりません。障害のある子どもとより発展的なかかわりをするために、「かわいい」、「楽しかった」だけではなく、子どもの行動や自分自身のかかわり方を丁寧に振り返る必要があると思います。

2 つ目は、子どもの味方(ミカタ)、いわゆるヒーローになることです。皆さんご存じの通り、毎週日曜朝 9 時 30 分になると、テレビ画面にヒーローが現れます。彼らは、どんなときも嫌な顔をせず、世の中のため、そして何よりも子どもたちのために戦います。子どもたちは目を輝かせながらその姿を観ています。私(と息子)も毎週欠かさず観ていて「ヒーロー戦隊は偉いなぁ･･･」と感心しています。彼らには、子どもたちを楽しませるという“責任と自覚”があるんです。私は、障害のある子どもとのかかわりにも同じことが言えると思っています。障害のある子どもは、周囲とうまく関係が築けず、居場所がないと感じてしまう子が多いです。そ

のような中で、ボランティアで会いに来てくれる学生は、まさにヒーローです。教育現場では、学校の先生が子どもにとってのヒーローになると思います。ヒーローは絶対に裏切らないし、嘘をつきません。憧れの的です。皆さんには、子どものヒーロー(味方)になって欲しいと 思います。

2つのミカタは、とても当たり前のことかもしれません。ただ、学生時代を振り返ると、アルバイトや部活など、その当時はそれなりに忙しくて子どものミカタについて真剣に考えたことは少なかったと後悔しています。皆さんには、充実した学生生活を送るとともに、教育現場に出たときに必要な力を身につけて欲しいと思っています。